

# 月刊 しばうら

2021年 10月号

## 牛肉営業部

令和3年度全国肉用牛枝肉共励会

セリ販売日 10月29日（金）

令和3年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る10月26日（火）～10月29日（金）にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は500頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が272頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が71頭、和牛牝が157頭を予定しております。

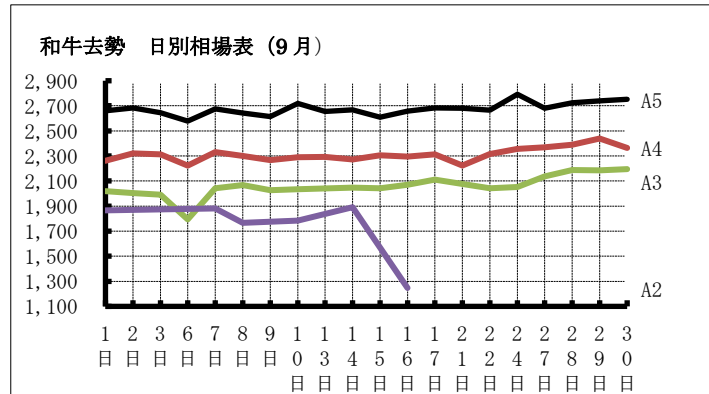
なお、本年は新型コロナウイルス感染症の影響により前夜祭及び褒賞授与式は中止とさせていただきます。何とぞ事情ご賢察のうえ、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

### <行事予定>

- 10月26日（火）午前10時00分より出品牛測定（和牛牝）
- 27日（水）午前8時30分よりと畜解体（和牛牝）  
午前10時00分より出品牛測定  
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 28日（木）午前8時30分よりと畜解体  
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 29日（金）午前6時30分より枝肉審査  
午前8時45分よりセリ販売

### <9月の相場動向>

新型コロナウイルスの感染拡大による19都道府県での緊急事態宣言および8県でのまん延防止等重点措置が、9月末まで発出されていたこともあり、外食需要は回復せず、和牛相場は保合いの展開となった。また経済の先行き不透明感からくるデフレ傾向の継続によって、本来は小売り・量販店で需要が高い交雑種も、今一つ売り場の盛り上がりは無かったが、輸入牛肉の高値によって保合いの展開が続いた。



### 和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,683円	+230円	109.4%	+96円	103.7%
A4	2,314円	+211円	110.0%	+67円	103.0%
A3	2,068円	+153円	108.0%	+75円	103.8%
A2	1,790円	+38円	102.2%	+93円	105.5%

### 交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,719円	+197円	112.9%	-30円	98.3%
B3	1,515円	+178円	113.3%	-69円	95.6%
B2	1,338円	+166円	114.7%	-60円	95.7%

### 乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	—	—	—	—
B2	1,024円	+237円	130.1%	+214円	126.4%

### <10月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると8月の輸入量は前年同月比13.9%増の5万3,784tで、うちチルドは同20.6%増の2万3,344tと大きく上回った。要因としては前年の輸入が少なかった反動とみられる。フローズンは豪州産トリミング材がけん引し、前年同月比9.3%増の3万440tとなった。

農畜産業振興機構によると9月の牛肉輸入数量は前年同月比13.7%増の5万300t、10月は0.9%減の5万500tと予測している。チルドについて前年は北米工場の作業効率の低下や豪州の牛群再構築による生産減少があつて、その反動から1.6%増加とみるが、フローズンについては米国産の現地価格の高騰もあり前年2.6%減を見込んでいる。

輸入牛肉通関量		8月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,719	7,653	100.9%
	米国	12,805	9,878	129.6%
	その他	2,820	1,829	154.2%
	合計	23,344	19,360	120.6%
フローズン	豪州	12,071	12,162	99.3%
	米国	8,823	10,456	84.4%
	その他	9,546	5,224	182.7%
	合計	30,440	27,842	109.3%

出典：食肉速報 単位：t

### <10月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による10月の出荷予測頭数は全体で前年比97.3%の9万1,600頭で、品種別にみると和牛は6.4%減の4万400頭、交雑種は5.7%増の2万800頭、乳用種は3.1%減の2万8,700頭と予測している。

東京食肉市場の10月のと畜頭数は7,680頭を予定しています。

### <10月の牛枝肉相場見通し>

9月30日を以て緊急事態宣言・まん延防止等重点措置は全都道府県で解除された。外食需要の活性化が期待されるものの、インバウンド需要は消滅していることから新型コロナ流行前の状況にはまだまだ程遠い。

景気の先行き不安や野菜価格の高騰など牛肉の需要を取り巻く環境は厳しいが、和牛については冷凍保管事業や輸出需要によって一定の価格が維持されると予想する。交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いこともあり、ある程度の価格は維持する展開を見込んでいる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600～2,700	B4	1,700～1,800
A4	2,400～2,500	B3	1,550～1,650
A3	2,200～2,300	B2	1,400～1,500
A2	2,000～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

## 豚肉営業部

8月の全国と畜頭数は前年同月比4.4%増の132万5,678頭。また8月の豚肉通関数量は7万8,228t（前年同月比14.2%増）と前年同月を上回り、前月比でも4.7%の増加。内訳はチルドが3万4,063t（8.8%増）、フローズンは4万4,165t（18.8%増）となった。

2020-2021年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
比	104%	114%	112%	82%	104%	101%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

8月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,339	108.6%	デンマーク	8,622	160.3%
カナダ	16,095	109.2%	スペイン	11,792	138.8%
メキシコ	1,626	108.0%	メキシコ	8,861	127.2%
			アメリカ	2,995	81.9%
			カナダ	2,722	97.2%
合計	34,063	108.8%		44,165	118.8%

単位：t

### <9月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	58,900	610	551	694
2日	61,200	597	553	517
3日	57,000	586	544	855
6日	63,100	591	551	704
7日	65,300	593	568	874
8日	62,100	605	563	554
平均	61,267/日			700/日

全国出荷頭数は6万頭を割り込む日もみられたが概ね6万頭台前半で推移した。月初めの手当により相場は600円前後での底堅い展開となったが上中価格差は開いた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
9日	63,200	602	569	568
10日	59,200	589	575	871
13日	62,400	624	598	549
14日	64,900	651	634	888
15日	64,000	664	634	674
16日	67,300	652	642	599
17日	63,700	613	577	954
平均	63,529/日			729/日

気温が低下し、例年よりも早く鍋物需要が高まったことによりスライス系アイテムの引き合いが強く、全体的に堅調な荷動きとなった。新型コロナウイルス感染症の影響で輸入物の供給が不安定な状況にあり国産ヘシフトするケースもみられた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	72,600	555	530	726
22日	71,700	564	550	987
24日	67,400	577	543	1,077
27日	68,000	592	570	752
28日	66,000	582	571	865
29日	67,100	592	557	637
30日	65,400	584	544	785
平均	68,314/日			833/日

緊急事態宣言が発令されている中での連休となったが、天候に恵まれたことで観光地は予想以上に多くの人が見られた。全国出荷頭数は、21・22日は7万頭を上回ったことにより相場は軟調な展開となったが、連休明けからは補充買いもあり強含みとなった。

### <10月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による10月の肉豚出荷予測は143万4,000頭（前年同月比97%）と予測している。当市場の10月集荷予定頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約857頭を見込んでいます。

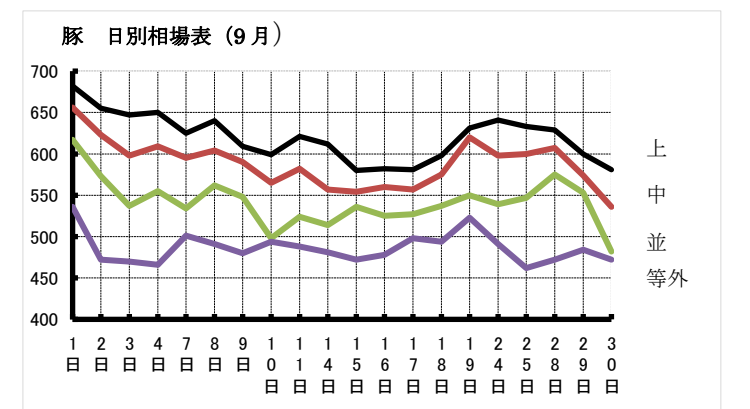
農畜産業振興機構によると10月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万3,800t（同101.9%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,100t（同94.4%）、冷凍輸入量は4万700t（同109%）と予測。

冷蔵品輸入量は北米における現地価格の高騰の影響等から前年同月をやや下回ると予測する。なお、3ヵ月平均は前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は外食需要の減少に加え、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰等が続いているものの、前年同月の輸入量が新型コロナウイルス感染症の影響で少なかったことから、かなり大きく前年同月を上回ると予測する。3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

緊急事態宣言が解除され、今後は外食関係の盛り上がり期待され、気温の低下と共に本格化する鍋物需要に向けて、スライス商材への引き合いも見込まれる。更に輸入豚肉の価格上昇や入船遅れなどにより、国産豚肉ヘシフトし相場は底堅く推移する展開もありそうだ。しかし今後は出荷頭数が徐々に増える時期となり、例年通りの供給増、相場安の展開となることも考えられ、依然として不透明感は強い。

以上のことから当市場の上物平均価格は480円前後、中物平均価格460円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127